

# 導入1年 全て成功

## 前立腺全摘出が先進医療認定

鳥取大学  
手術ロボット



会見でロボット支援手術の成果を報告する北野病院長(左から2人目)=17日、米子市西町の鳥取大学医学部付属病院

鳥取大学医学部付属病院(米子市西町)は17日、院内で会見を開き、昨年8月に導入した手術支援ロボットを活用した手術をことし7月までに55件行い、全て成功したと発表した。結果の分析で、出血量が少なくがんを取り除く治療成績が向上するなど、患者への利点が認められたという。

また、実績を基に同病院のロボットを使用した前立腺全摘出手術が今年1日付で先進医療として国に認められた。今後は同手術を受ける場合の入院費用などに保険が適用され、自己負担が抑えられる。国による同手術の先進医療認定は全国4施設目。

同病院は昨年10月の前立腺全摘出手術を皮切りに、子宮全摘出を9件、前立腺全摘出を26件、胸腺摘出を8件、肺がん切除を8件、胃がん切除を4件実施。前立腺全摘出では、執刀した武中篤泌尿器科

長によると、開腹手術に比べて出血量がおおむね半分から5分の1程度に抑えられ、がんの切除率も向上、前立腺を摘出した場合に問題となる手術後の尿漏れも改善したという。

同病院は、ロボット手術を核に各診療科が連携して安全な医療の提供に取り組むために、ことし2月に安全性の事前審査などをすすめる低侵襲外科センターを立ち上げた。さらに、研修のための見学ができるロボット手術専用の手術室を来年度中に新設する予定。北野博也病院長は「ロボット手術を鳥取から全国に発信したい」と話している。